

開催報告

かあちゃん達のお話と試食交流会

かあちゃんの味で伝えるふくしまの福幸

～お野菜とお魚の安全・安心～



日時：2017年12月14日（木）13:00～16:00
 会場：東京都生協連会館 3階会議室
 主催：東京都生活協同組合連合会 協力：消費者行政連絡会
 協賛：くらしフェスタ東京2017 東京都消費者月間協賛事業
 参加人数：55名（事務局含む）

13:00 開会
 13:05 お話
 14:55 質疑応答
 15:15 試食交流・販売
 16:00 終了



司会
 村島伊津子さん
 （パルシステム東京）



開会あいさつ
 秋山純さん
 （東京都生協連）

東日本大震災、原発事故以降、福島のお魚の安全・安心の取り組み、復興の取り組みについて広く知らせるために継続して行ってきた学習会。今年度は、福島の漁業の現状と今後について学びました。また、生産者・主婦の立場から食文化の継承や農・海産物の6次産業化と普及をすすめ、復興に取り組んできた方々のお話を聞くとともに、試食をしながら交流を図りました。

ふくしまの漁業は今

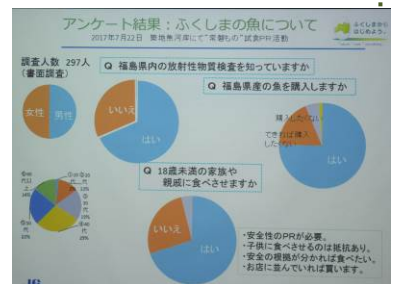
八多 宣幸さん（福島県漁連 災害復興プロジェクトチームリーダー）

- 風評被害に関する消費者意識の実態調査結果
 - ・ 基準値超の食品は出荷・流通されないことを知っている。41.3%
 - ・ 放射性物質の検査が行われていることを知らない。37.5%
 - ・ 福島県産品の購入をためらう。13.2%

⇒まだまだ福島県産の魚を購入したくないと思っている人が多い！！

- 「原子力災害対策特別措置法に基づく食品に関する出荷制限」
 福島県産の海産魚介類 10種類（2017年11月末現在）が出荷制限魚種となっている。
 ウミタナゴ、カサゴ、キツネメバル、クロダイ、サクラマス、シロメバル、スズキ、ヌマガレイ、ムラソイ、ピノスガイ

- 試験操業
 目的：出荷先での評価を調査、福島県産の魚の安全性をアピール
 試験操業の対象種：2017年3月現在97種類
 →2017年4月～「出荷制限を除くすべてを対象とする」
 課題：①出荷対象種の拡大、②風評対策、③本格操業に向けた検査体制の整備



相馬魚食文化の伝承～語り継ぐ「浜のかあちゃん飯」～

佐藤 靖子さん（相馬双葉漁協 女性部相馬支部）

原発事故によって壊されてしまった漁業や豊富な魚の文化を復活させようと地域復興と食文化の伝承にがんばってこられたお話をお聞きしました。

相馬は水揚げからせり、片付けまでの作業を女性だけで全ておこなう全国でも珍しい浜



女性の力が相馬の漁業を支えている！

相馬の魚食文化を継承するため「浜のかあちゃん調理教室」を開催することで、消費者の不安解消、風評払しょくにつながっている。



- ★今後の課題★
 相馬地区水産物の認知度・知名度UPや漁業を中心とした地域の活性化、本操業に向けた女性部活動の充実



「小さなことでも今だからこそ」という思いで活動を続けることに

平成28年復興応援「キリン絆プロジェクト」
 料理を作ることと商品を作ることの違いに試行錯誤しながらも「まる蟹の蟹味噌」を商品化。試食会でも高評価！



やがまし姫はツブぞろい 食べてみっせ！かしまの一品

北元 浩子さん（相馬双葉漁協 女性部鹿島支部）

女性部のみなさんが一致団結してがんばっている様子や6次化商品開発の取り組みについてお話していただきました。

- 震災後に南相馬市が立ち上げた事業である南相馬復興大学に鹿島女性部も参加することに
 - ・漁協らしい活動はなにか？→おいしい魚を消費者に届ける
 - ・女性の特技（調理・加工）を生かす→6次化
- 販促活動の足がかりとなる商品を！→試作を繰り返し、ツブ生姜煮の完成。
- 活動の拡大を目指して、さらなる商品開発に着手
 - 平成28年6月に操業開始のホッキ貝に着目
 - 烏崎アヒーショの完成！



シンボルマークの完成！

★今後の課題★

ツブ生姜煮の販路拡大、烏崎アヒーショの販売、からすやがましひめのブランド化

福島の福幸（ふっこう）のために

渡邊 とみ子さん（いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会会長、元NPO法人かーちゃんのカ・プロジェクトふくしま理事）



渡辺さんの原点となっている「女性も地域のリーダーとなり、自分たちの地域の事は自分たちで考えていく」地域づくりの活動のお話の後、DVDを見せていただきました。

- イータテバイクじゃがいも研究会での活動
 - ↓ 夢・目標が高ければその道のりは険しく長くなるが
 - 一步踏み出さなければゴールはない
- 原発事故で全てが奪われてしまった！
 - これまでの思いと活動をあきらめたくない
 - ↓ 避難先で未来につなげる「種」を収穫
- 「かーちゃんのカ・プロジェクト」開始
 - ↓ 秩父農工生との連携、阿武隈の凍み文化の継承
- 泣いてばかりいたかーちゃんたちに笑顔が戻ってきた！



何かをやろうとすれば困難にぶつかる事もある。何もやらなければ何も残らないし何の成長もない。とかくやらない人ほど理由付けをする。しかし、撒かない種には芽もでないし、実もならない。これからも新たに心に撒いた種を育ての親として立派に花を咲かせて刈り取りできるように大切に育てていきたい

試食・交流

お話を聞いた後、福島のみなさんが用意してくださった試食品をみんなでおいしくいただきながら交流をしました。また、販売されたかあちゃんの心のこもった商品は、あっという間に完売してしまいました。



お米のサンプルを全員にプレゼントしました



<試食品>

- ・リンゴ（サンふじ）
- ・ホッキ貝のアヒーショ
- ・かにみそ
- ・かぼちゃのマドレーヌ



<販売品>

- ・かぼちゃのマドレーヌ
- ・かぼちゃのカレー
- ・かぼちゃのスープ



☆アンケートより抜粋☆

◆講演・試食会の感想・意見など

・日が経つにつれて報道・関心が薄れている気がする。この災害大国で明日は我が身と思い、もっと考えてほしい。

・「原発事故で失われてしまった地域の誇りを取り戻す」というかあちゃんたちのパワーが印象に残りました。

・「女性も地域のリーダーとなり、自分たちの地域のことは自分たちで考えていく」地域づくりの活動が広がっていく社会はまさにこれから必要。

◆風評被害をなくし消費者に正しい理解が広がるためには何が最も大切か？

・福島の問題は私たち全員の問題として、自分のこととして考えていかなければならないと思っています。それにはやはり現実を知ること、学ぶことが大切だと感じました。

・福島から発信し続けることが大切。

・マスコミが正しい情報を継続して発信することも大切ですが、私たちひとりひとりが伝えていく、利用することが生産者の気持ちをつなげていくことになると思います。

・自分の目で見ると聞く。それを伝えていくこと。